４．景観計画におけるコンセプト

第１ゾーン（都橋～一ツ橋）・・・「あじさいの小路」

〈イメージ〉

大通りと釜川が交差する都橋は、釜川プロムナードの主要なエントランスポイントであるため、百花苑に関するインフォメーションと共に、釜川へのアプローチを意識した景観デザインの整備が必要である。

このゾーンの植栽計画は、日照条件を考慮した修景を行なう必要があるため、都橋から柳橋の間については、日陰に強い「あじさい」を中心に、周辺環境に適した多彩な四季の花が観賞できる散策路として修景計画を行う。

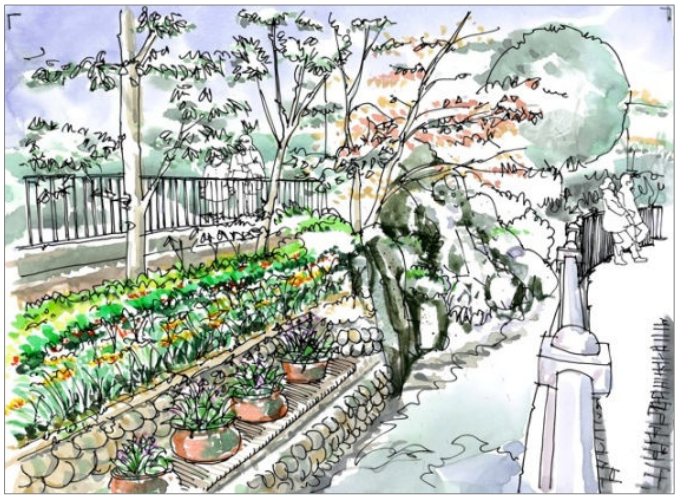
又、柳橋から一ツ橋までは、存在感のある自然石の景観に映えるモミジや草木類による趣のある和風庭園をイメージした修景デザインとする。

〈イメージ〉

ｶﾞｸｱｼﾞｻｲ

第２ゾーン（一ツ橋～新橋）・・・「滝のある風景」

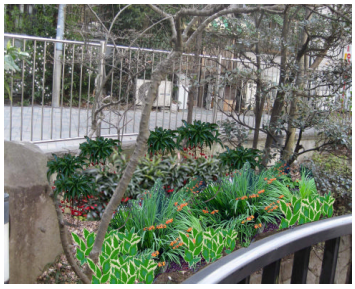
〈イメージ〉

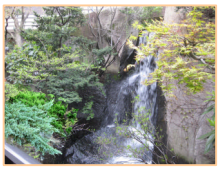


このゾーンの景観形成における重要なポイントは、「一ツ橋」と「ふれあいの滝」である。　「一ツ橋」は、オリオン通りと釜川の交差点に位置し、釜川プロムナードで最も通行量の多い場所であるため、歩行者に対して釜川百花苑のイメージを印象づける景観デザインが不可欠である。

「ふれあいの滝」は、中心街における貴重な親水施設であり、周囲にやすらぎと潤いを演出する水辺空間として修景計画を行なうと共に、一ツ橋とふれあいの滝に隣接する「公衆トイレ」についても、オリオン通りからの視線やアプローチを意識した連続感のある複合的な景観施設として整備する必要がある。

〈イメージ〉





ﾋｵｳｷﾞｽｲｾﾝ

第 3 ゾーン（新橋～御橋）・・・「賑わい創造回廊」

ﾛﾏﾝﾁｯｸﾄﾞｰﾑﾗｲﾄｱｯﾌﾟ

　このゾーンは、中心市街地活性化及び釜川プロムナードの賑わいの核となるエリアである。現在、「釜川プロムナード整備協議会」を中心に市民・企業・各団体による花植えやプランター設置等の活動が定着しつつある。 又、重要な修景ポイントである「ふれあい広場」と「ロマンチックドーム」については、中心街の賑わいと活性化を創出するための市民活動の拠点としての景観整備が必要である。

　このエリアの景観計画のイメージは、四季折々の花が咲き、常に植栽の手入れがいきとどいている「 庭園広場 」であり、中心街に賑わいを創り出すパブリックスペースである。将来的には、このエリアの植栽及び景観施設等の活用に関する「市民による管理・運営システム」の創設が不可欠である。

ﾛﾏﾝﾁｯｸﾄﾞｰﾑ

〈イメージ〉

ふれあい広場

〈イメージ〉

ﾐﾆﾁｭｱｶﾞｰﾃﾞﾝ

第 4 ゾーン（御橋～今小路橋）・・・「歌人の小路」

御橋の脇にある牧水亭及び歌碑は、若山牧水が「下野歌人会」にて御橋の桜の歌を詠んだことに由来している。宇都宮市は、歴史的にも歌人（うたびと）と縁りのある町であり、古くは鎌倉時代の宇都宮歌壇、江戸時代の与謝蕪村、近代では若山牧水や野口雨情など多くの歌人・俳人が宇都宮の地で歌を詠んでいる。このゾーンにおける景観形成のコンセプトは、宇都宮に縁りの歌人・俳人に関連のある「歴史や文化」に触れながら散策する「回遊式庭園」である。

又、「歌人の小路」と名付けたこのエリアの景観イメージとしては、現在設置されている若山牧水の歌碑や牧水亭の「しだれ桜」を機縁として、野口雨情に縁りの「雨情しだれ桜」や「俳聖」与謝蕪村の俳号にまつわる句碑など、宇都宮に関係のある歌人・俳人の逸話や歌に詠まれた花木を基にした景観計画により、宇都宮の歴史や文化に親しみながら、いにしえの歌人（うたびと）の足跡を辿る魅力的な散策路として修景整備を行なう。

牧水亭

〈イメージ〉

野口雨情

〈イメージ〉

雨情枝垂桜